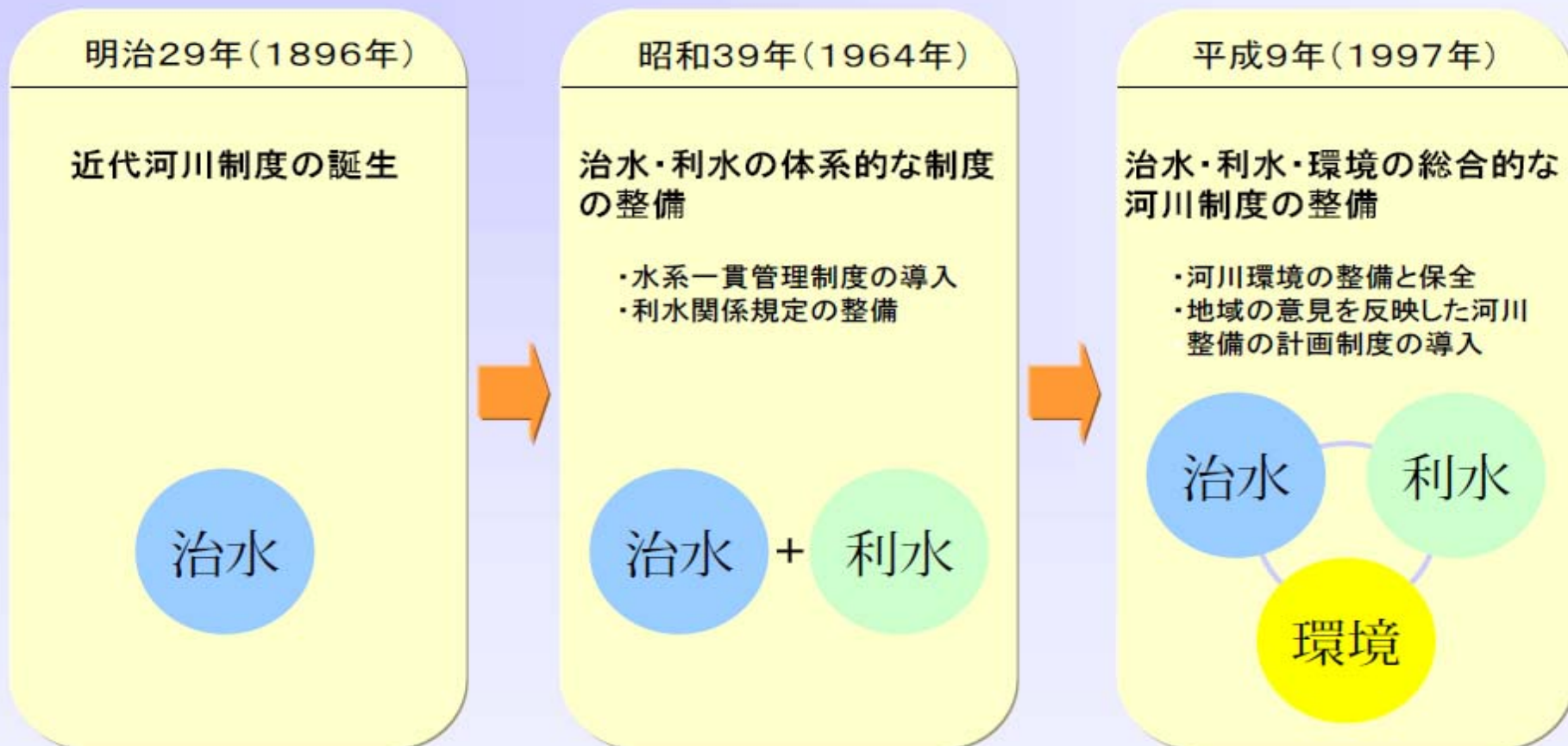


5.

- 1) 矢部川水系河川整備基本方針・
矢部川水系河川整備計画について

河川法の改正

河川法改正の流れ



計画づくりの新しい取り組み

旧制度

河川工事

工実施基本計画

内容 ⇒ 基本方針、基本高水、計画高水流量等
主な河川工事の内容

工実施基本計画
の案の作成

工実施基本計画
の決定

河川審議会
(一級水系)

意見

新制度

河川工事、河川の維持

河川整備基本方針

内容 ⇒ 基本方針
基本高水、計画高水流量等

河川整備基本方針
の案の作成

河川整備基本方針
の決定・公表

社会資本整備
審議会
(一級水系)
都道府県河川
審議会
(二級水系)

意見

都道府県河川審議会
がある場合

河川整備計画

内容 ⇒ 河川整備の目標
河川工事、河川の維持の内容

原案

河川整備計画の
案の決定

河川整備計画の
決定・公表

意見

意見

意見

学識経験者

公聴会の開催等による
住民意見の反映

地方公共団体の長

計画づくりの新しい取り組み

工事実施基本計画

1.河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- ・河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

2.河川工事の実施の基本となるべき

計画に関する事項

- ・基本高水及びその河道と洪水調節施設への配分
- ・主要な地点の計画高水流量
- ・主要な地点の流水の正常な機能を維持するため必要な流量

3.河川工事の実施に関する事項

- ・主要な地点の計画高水位、計画横断形等
- ・主要な河川工事の目的、種類、施行の場所
- ・当該工事による主要な河川管理施設の機能

河川整備基本方針

1.河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- ・河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持
- ・河川環境の整備と保全

2.河川の整備の基本となるべき事項

- ・基本高水及びその河道と洪水調節施設への配分
- ・主要な地点の計画高水流量
- ・主要な地点の流水の正常な機能を維持するため必要な流量
- ・主要な地点の計画高水位、計画横断形に係る川幅

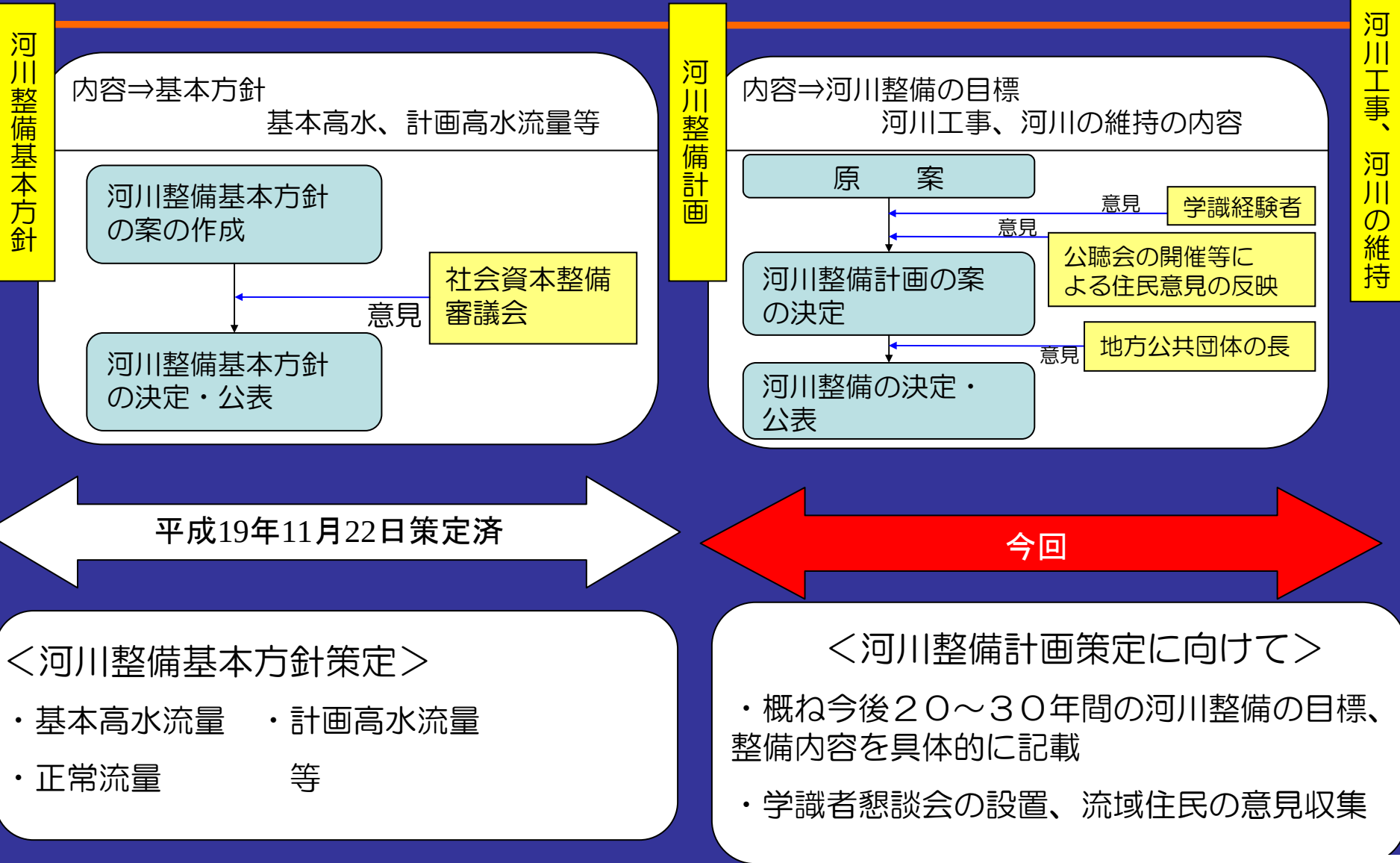
河川整備計画

1.河川整備の目標

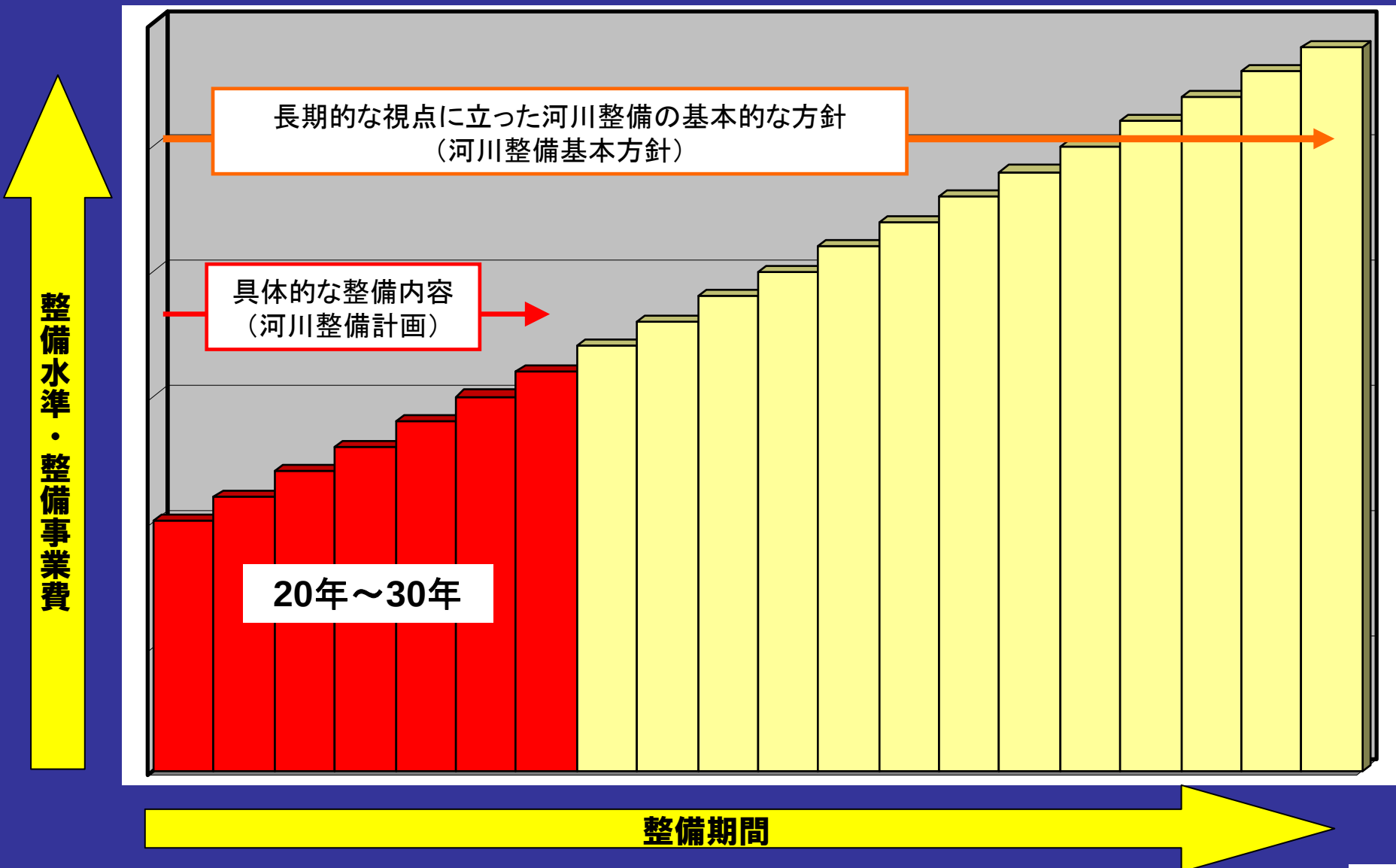
2.河川の整備の実施に関する事項

- ・河川工事の目的、種類、施行の場所
- ・当該工事による河川管理施設の機能
- ・河川の維持の目的、種類、施行の場所

矢部川河川整備基本方針と河川整備計画について



河川整備計画における段階的な整備（目標イメージ）



5.

2) 矢部川の現状と課題について

1) 矢部川の概要

流域の概要

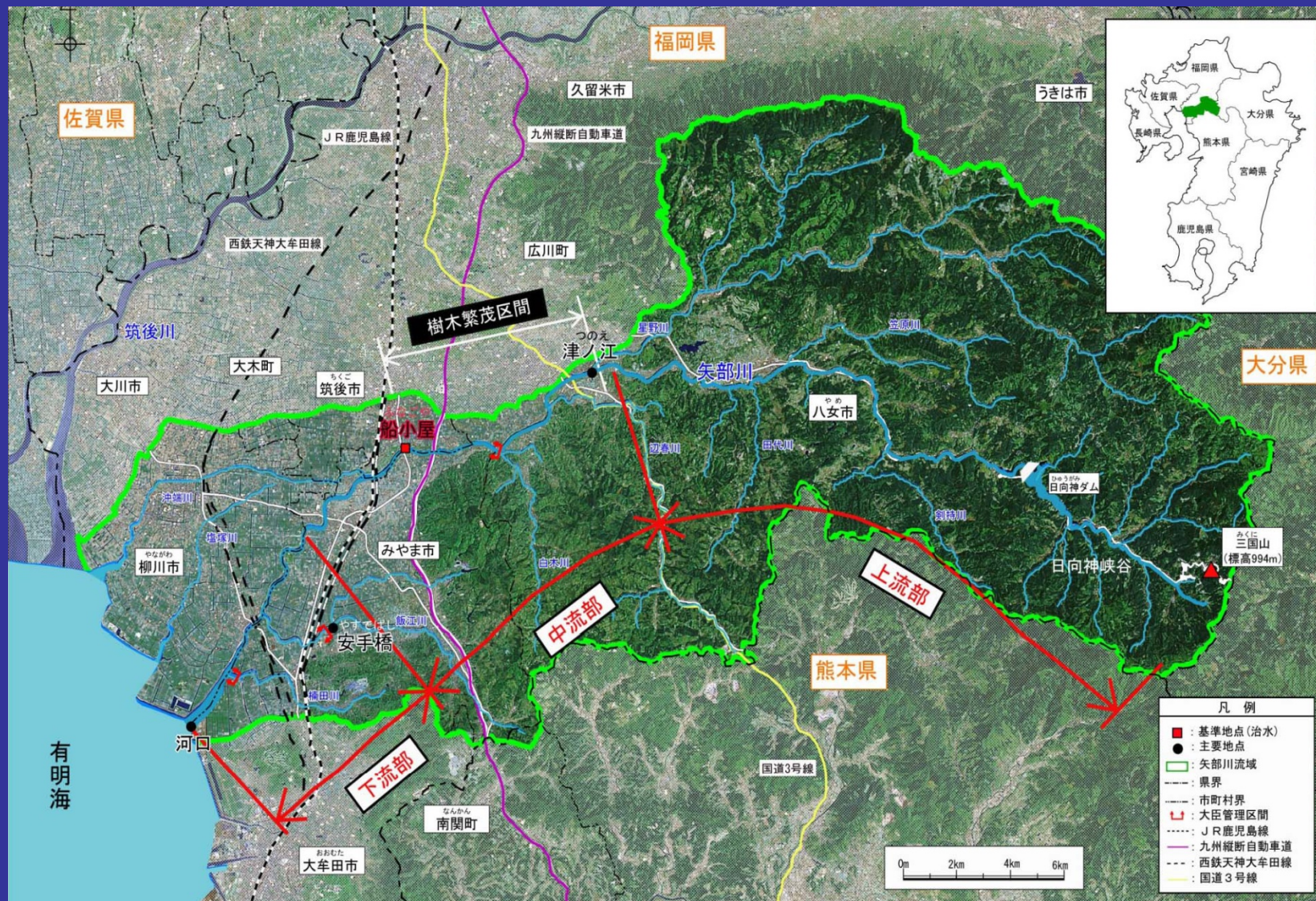
【源流】
福岡県八女市
三国山(994m)

流域面積

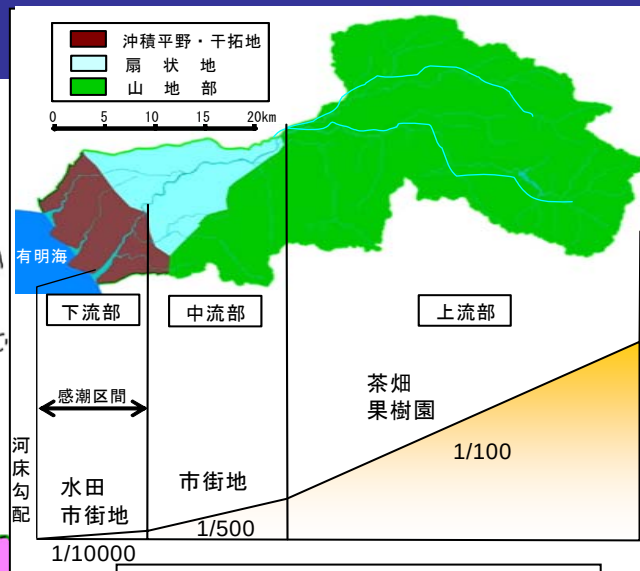
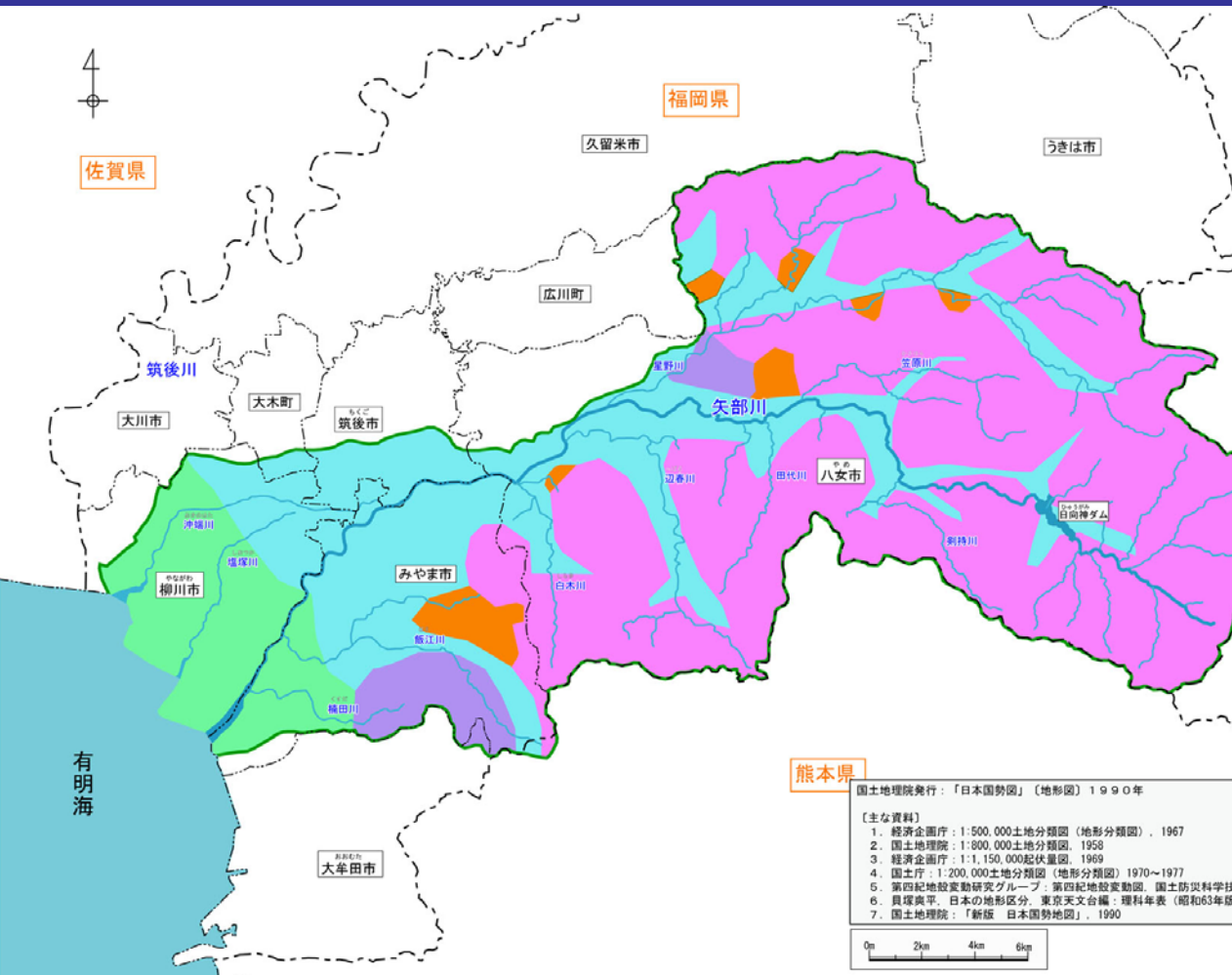
647km²

幹線流路延長

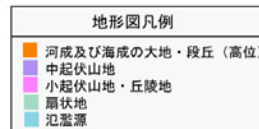
61km



地形



矢部川の河床勾配



熊本県

国土地理院発行：「日本国勢図」〔地形図〕1990年

〔主な資料〕

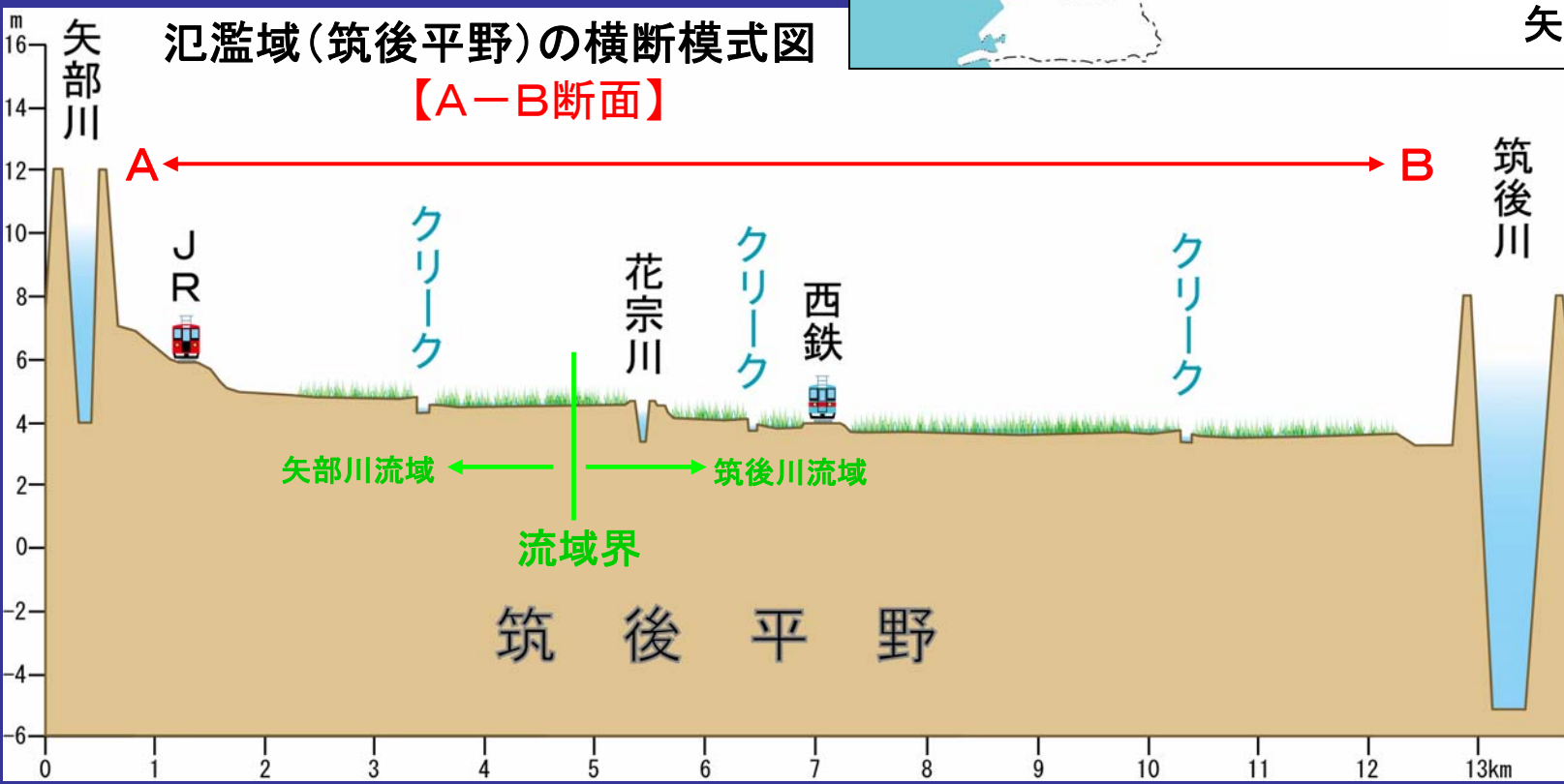
1. 経済企画庁：1:500,000土地分類図（地形分類図），1967
2. 国土地理院：1:800,000土地分類図，1958
3. 経済企画庁：1:1,150,000起伏量図，1969
4. 国土庁：1:200,000土地分類図（地形分類図）1970～1977
5. 第四紀地殻変動研究グループ：第四紀地殻変動図，国土防災科学技術センター，1969
6. 貝塚興平：日本の地形区分，東京天文会編：理科年表（昭和63年版），丸善，1968
7. 国土地理院：「新版 日本国勢地図」，1990



河床勾配は、上・中流部は約1/100～1/500となっており、下流部は約1/10,000と緩勾配になっている。

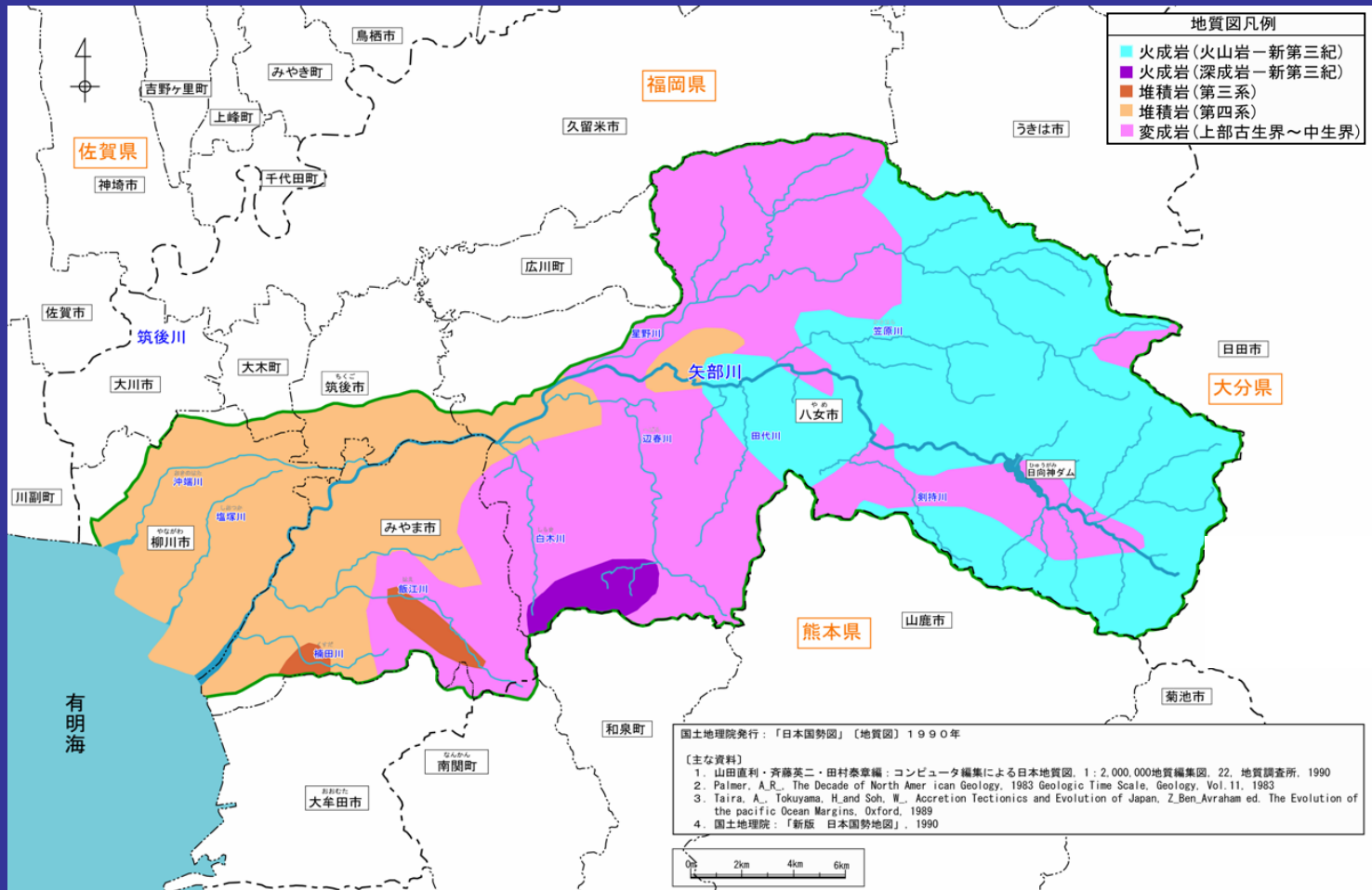
■ 地形

- 矢部川の堤防は堤内地盤高より高い。
- 洪水時には水位が高い位置を流れ、堤防が決壊した場合には、甚大な被害が発生



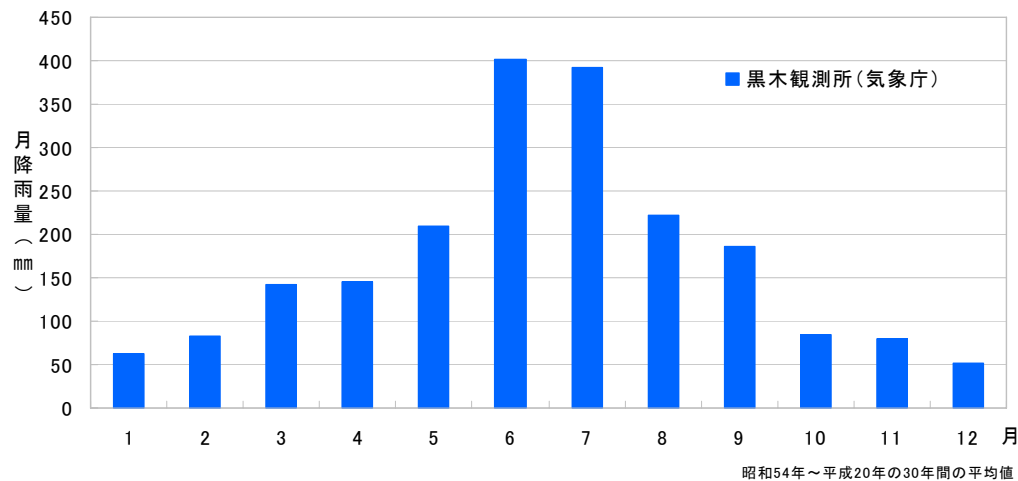
■地質

矢部川流域の地質



- ・矢部川流域の地質は、上流部の東側の釈迦ヶ岳山地は大部分が輝石安山岩や凝灰質角礫岩であり、矢部川上流の谷には変成岩がみられ、一部には阿蘇山の溶結凝灰岩が堆積している。
- ・上流部北側の耳納山地、南側の筑肥山地は、黒色砂質準片岩・緑色準片岩などが大部分を占めている。

■ 気象



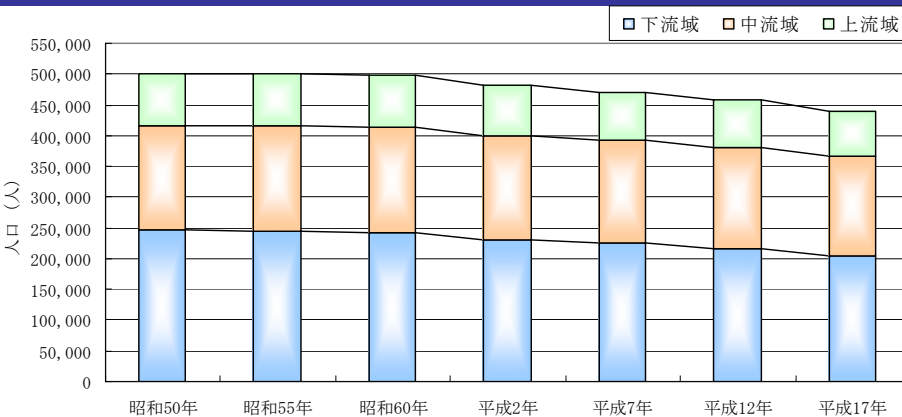
- 上流部が山地型、中下流部が内陸型気候区に属する。
- 年平均降水量は2,500mm。その約4割が梅雨期に集中。
- 梅雨期と台風発生期(6～9月)で年降水量の6割を占める。

月別降水量(黒木) 出典:気象庁資料



矢部川流域の年降水量分布

流域の人口



矢部川流域関係市町村人口の推移

流域関係市町: 下流(柳川市、大牟田市)
 中流(みやま市、大木町、筑後市、南関町)
 上流(八女市)

- 流域人口はほぼ横ばいで推移。
- 人口の大部分が想定はん濫区域内に居住している。
- 洪水がはん濫した場合、想定される被害は甚大。

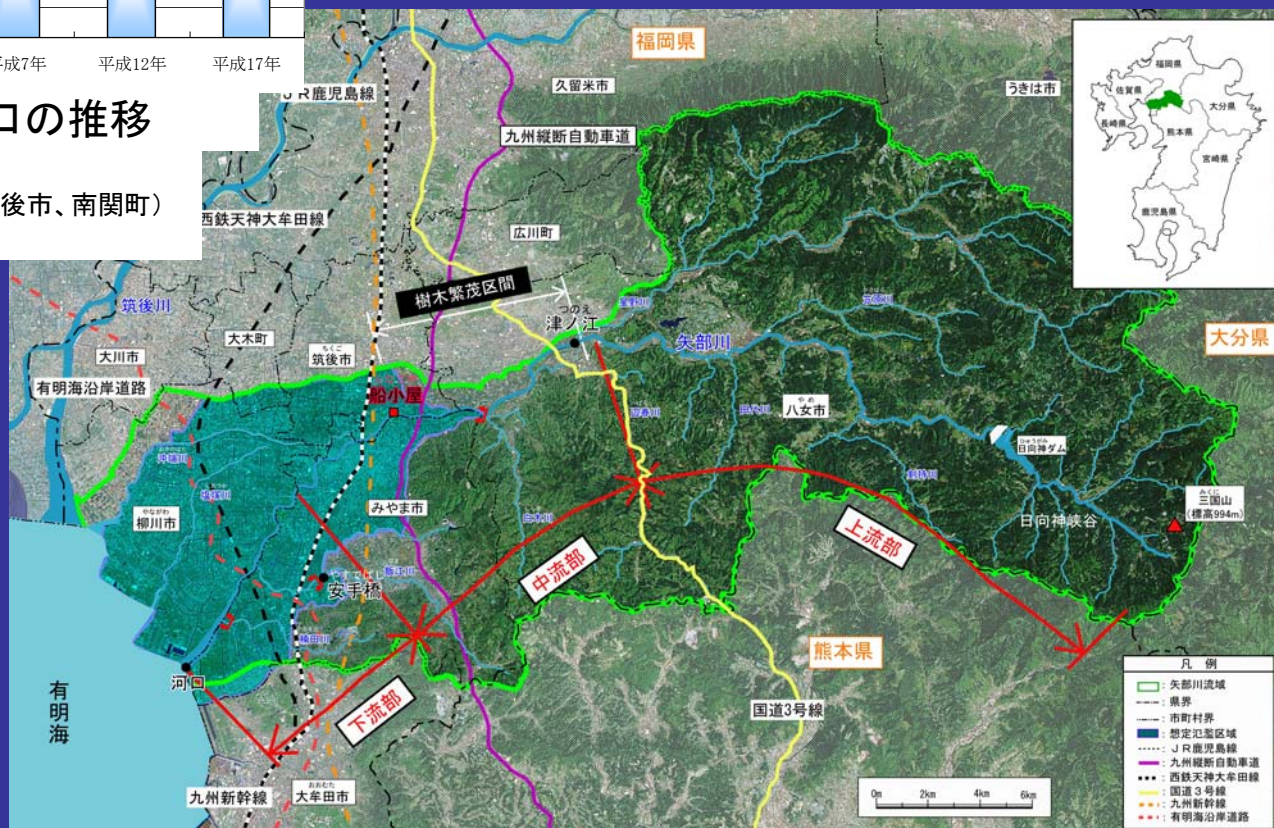
流域内人口

約18万人

想定はん濫区域内人口

約12万人

(H17国勢調査データより集計)

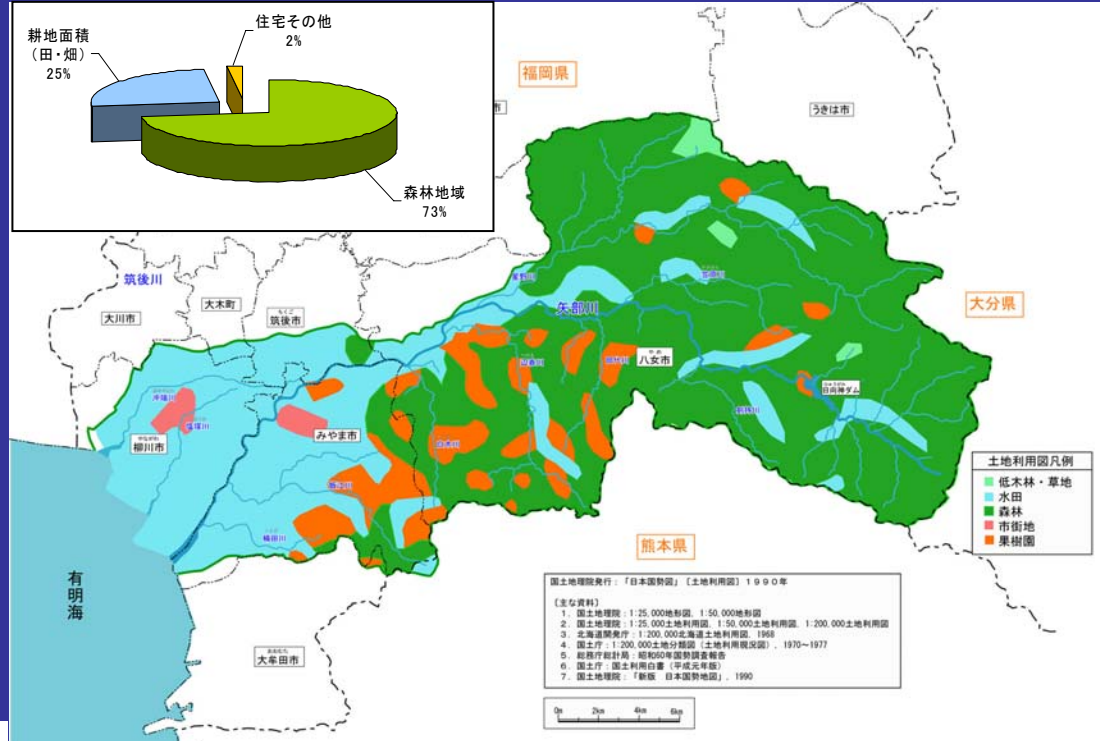


矢部川の地形と想定はん濫区域

■土地利用及び産業

(H17国勢調査データより集計)

- 流域の土地利用は山地等が約73%、水田や果樹園等の農地が約25%、宅地等市街地が約2%。
- 矢部川流域内の主幹産業は、農業を中心とする1次産業で、矢部川上流では、木材・茶・みかん・酒が、また、有明海沿岸では、ノリ養殖が盛んである。
- 特に、八女市を主産地とする「八女茶」及び星野村の「玉露茶」は全国的に有名で、八女茶は手摘みの高級茶として、また、星野村玉露茶は全国生産量の約半分を占めている。



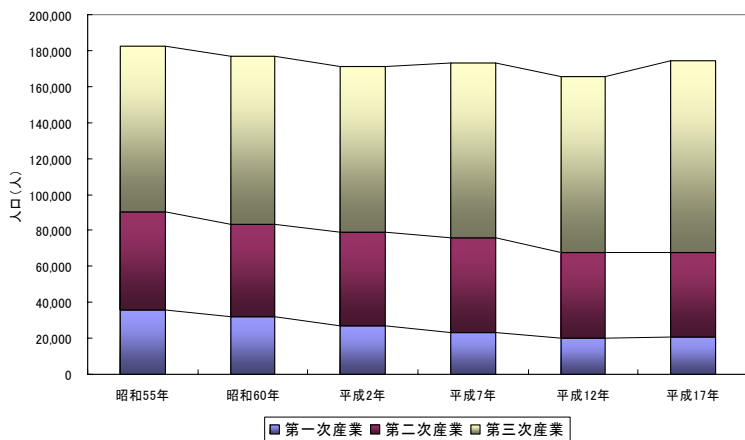
矢部川流域の土地利用状況



八女茶の栽培風景
(八女郡黒木町)

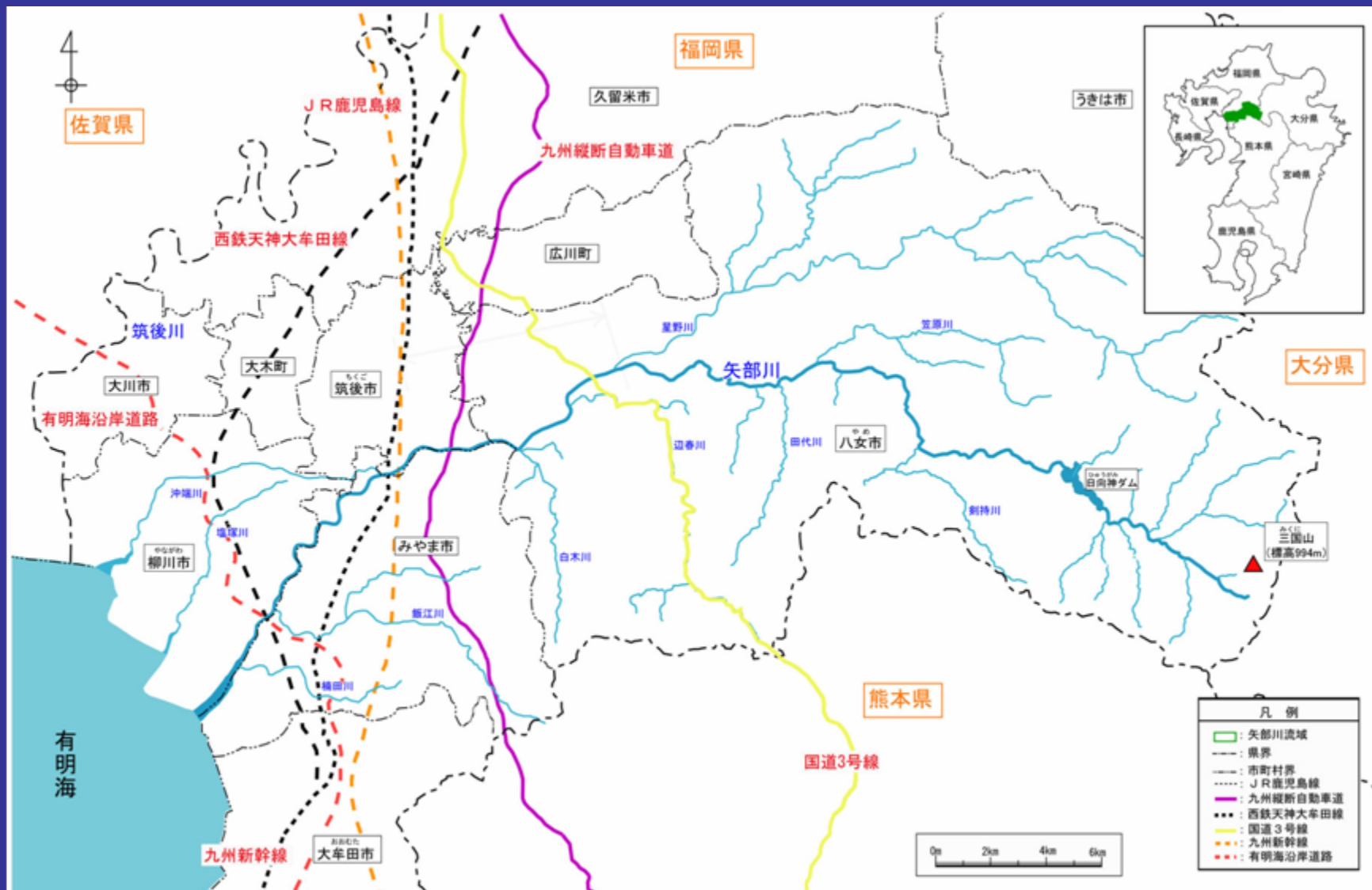


ノリ養殖
(矢部川河口付近)



矢部川流域内関係市町村
産業別人口構成

交通



●JR鹿児島本線、九州縦断自動車道、国道3号等の基幹交通施設に加え、九州新幹線や有明海沿岸道路が整備中

2) 現状と課題【治水】

2).1 洪水の概要

2).2 治水事業の沿革

2).3 治水の現状と課題

2).1 洪水の概要

①昭和28年6月洪水

昭和28年6月
戦後最大洪水

基本方針規模相当の洪水が発生

- 矢部村(現:八女市)では昭和28年6月25日～28日の4日間で総雨量が924mmに達した。
- 堤防は決壊、橋は流失し、山地では地すべりを起こし家屋を破壊するといった状況が発生した。

床上浸水戸数:10,138戸

床下浸水戸数:15,896戸



昭和28年洪水実績浸水範囲



昭和28年洪水の状況



南筑橋流失状況 上流左岸より



船小屋橋上流右岸より

出典:八女郡水害誌

②平成2年7月洪水

平成2年7月
戦後第2位洪水

昭和28年に次ぐ、戦後第2位を記録する洪水が発生

●立花町(現:八女市)では平成2年7月2日の9時～10時にかけて、時間雨量78mmを記録し、24時間の最大雨量も365mmに達した。

床上浸水戸数:484戸

床下浸水戸数:1,662戸



平成2年洪水の状況



出典:八女郡水害誌

2).2 治水事業の沿革

大正2年 矢部川第1期河川改修工事(福岡県)

昭和3年6月洪水

昭和21年7月洪水

昭和28年6月洪水
(戦後最大)

昭和44年6月洪水

昭和45年に一級水系に指定
・国による河川改修事業に着手

平成2年7月洪水
(戦後第2位)

平成9年河川法改定

昭和4年 矢部川第2期河川改修工事(福岡県)
計画高水流量: $2,226\text{m}^3/\text{s}$

昭和25年 矢部川第3期河川改修工事(福岡県)
計画高水流量: $3,000\text{m}^3/\text{s}$

昭和35年 日向神ダム(福岡県)完成

昭和46年 矢部川水系工事実施基本計画

基準地点: 船小屋

基本高水のピーク流量: $3,500\text{m}^3/\text{s}$

計画高水流量: $3,000\text{m}^3/\text{s}$

昭和63年 矢部川水系工事実施基本計画(改定)
干拓に伴う管理区間延長

平成19年 矢部川水系河川整備基本方針

基準地点: 船小屋

基本高水のピーク流量: $3,500\text{m}^3/\text{s}$

計画高水流量: $3,000\text{m}^3/\text{s}$

2).3 治水事業の現状と課題

- ①洪水を安全に流下させるための対応
- ②高潮災害を防ぐための対応
- ③堤防の浸透に対する安全性
- ④内水被害に対する安全性
- ⑤河川の維持管理

① 洪水を安全に流下させるための対応

【現状と課題】

- 昭和28年6月水害以降、この洪水と同規模の洪水に対して安全性を確保するため、河川整備を進めてきたが、堤防の整備延長は完成堤防整備率が65%であり、**局所的に堤防高・幅が不足している区間が存在している。**
- 上流樹木群区間は、藩政時代にクスノキ(水害防備林)を植樹し、水はねにより水勢を弱める治水対策を実施し、近年では固定堰の可動化や日向神ダム等の整備を実施することで治水安全度の向上を図ってきたが、**樹木繁茂により河積不足が生じる懸念があるため、樹木伐開等適正な管理を行う必要がある。**

堤防整備の状況(平成22年3月時点)

区分	延長(km)	割合(%)
完成堤防	26.8	65.0
暫定堤防	14.1	34.2
堤防不要区間	0.3	0.8



① 洪水を安全に流下させるための対応

①矢部川河口付近(0k付近)



②楠田川合流点付近(3k付近)



③飯江川合流点付近(5k付近)



④矢部川津留橋付近(7k付近)



⑤矢部川三瀬大橋付近(9k付近)



堤防整備の状況(平成22年3月時点)

区分	延長(km)	割合(%)
完成堤防	26.8	65.0
暫定堤防	14.1	34.2
堤防不要区間	0.3	0.8

他事業管理区間
0k000~楠田川合流点

凡 例	
■	基準地点
—	完成堤
-----	暫定堤
—	計画堤防高さ未満

⑥矢部川瀬高堰付近(10k付近)



⑦矢部川幸作橋付近(12k付近)



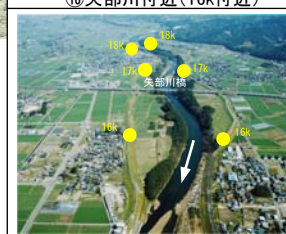
⑧矢部川沖端川分派点付近(13k付近)



⑨矢部川船小屋付近(15k付近)



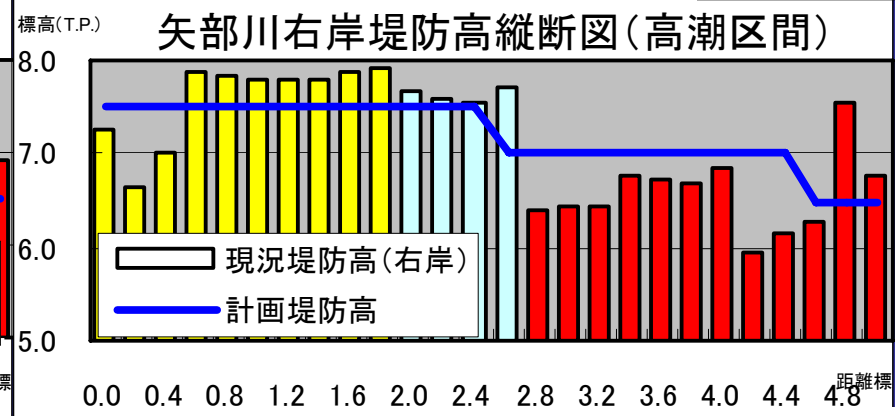
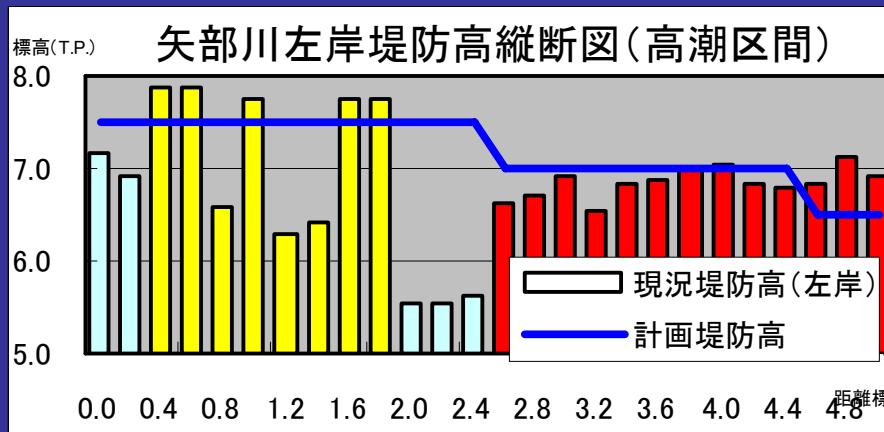
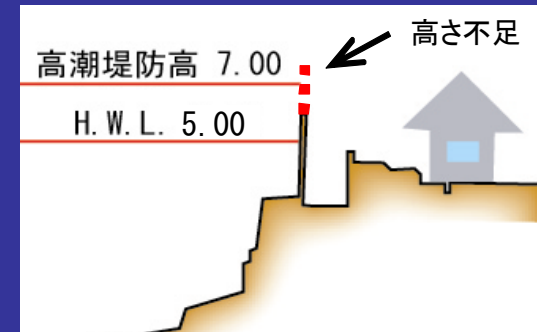
⑩矢部川付近(16k付近)



② 高潮災害を防ぐための対応

【現状と課題】

- 矢部川の河口は、国内最大の干満差を有する有明海の湾奥部に位置し、河口が南西方向に向いていることから、台風が九州の西側海上を通過すると高潮が発生しやすい特性を持っている
- 矢部川の高潮堤の整備は、有明海沿岸の整備率に比べ遅れており、治水安全度が低く、かつ人口が密集しているため災害ポテンシャルが高い
- 特に、中島地区の特殊堤(高潮堤)は堤防高、幅ともに不足しており老朽化も進んでいることから早急な堤防整備が必要



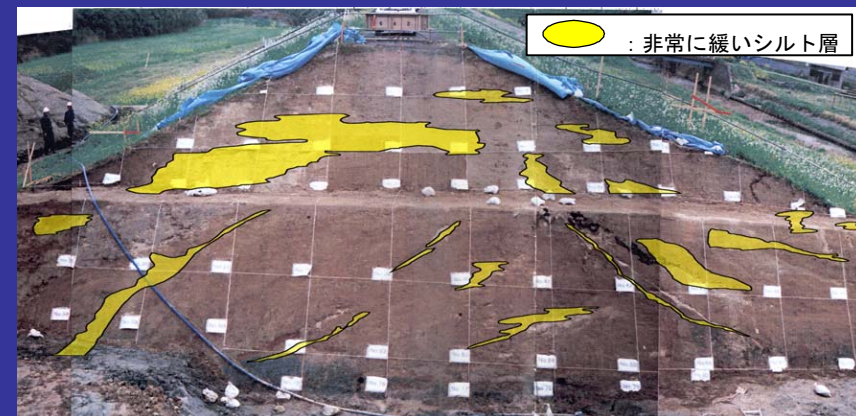
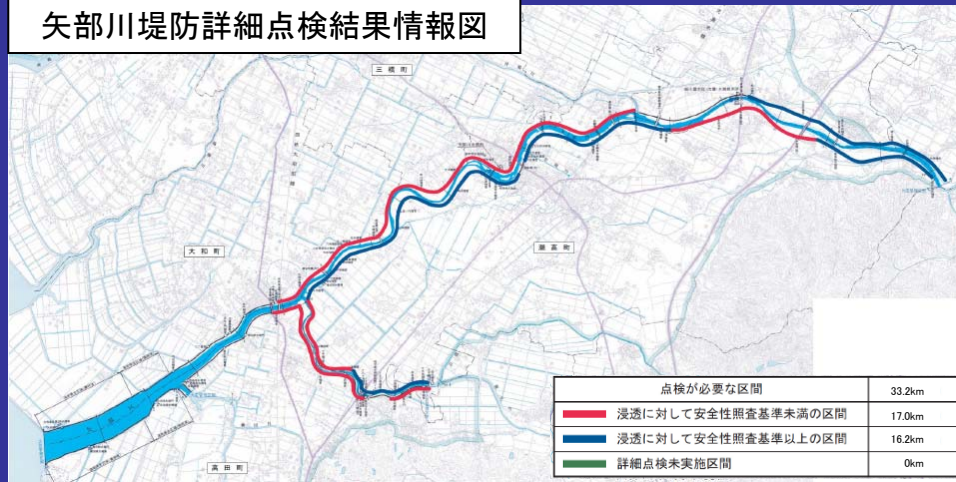
黄色: 農林水産省管理
水色: 福岡県管理
赤色: 国土交通省管理

③ 堤防の浸透に対する安全性

【現状と課題】

- 矢部川の堤防は、過去の度重なる洪水の経験に基づき築堤や補修が行われてきた歴史があるため、築造の履歴や材料構成等が必ずしも明確ではない。
- 堤防や地盤の構造がさまざまな不確実性を有している部分もあることから、堤防の安全性の点検を行っており、今後堤防詳細点検結果を踏まえ機能の維持や安全性の確保を図るため、必要に応じた堤防強化対策を実施していく必要がある。

矢部川堤防詳細点検結果情報図



不均質な堤体材料の事例
(嘉瀬川開削調査結果より)

④ 内水に対する安全性

【現状と課題】

平成2年7月洪水、平成19年7月洪水等において内水が発生し、家屋浸水が発生しており、文広排水機場や川内排水機場等を設置した。

排水ポンプ車等災害対策用機械の派遣や被災箇所の応急復旧等を実施することで洪水被害の拡大防止・軽減に努めている。



排水ポンプ車による排水作業(柳川市 平成21年)

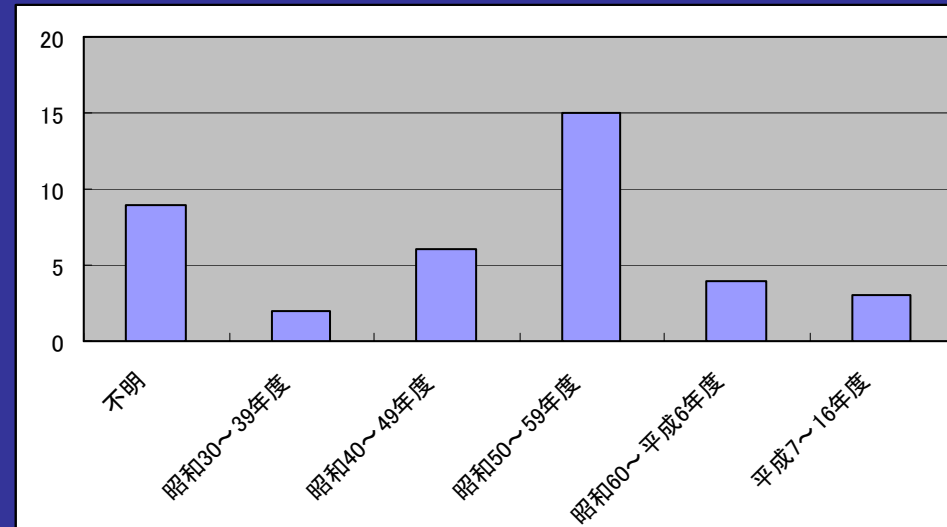
⑤ 河川の維持管理(河川管理施設)

【現状と課題】

- 堤防の変状や漏水とともに護岸の老朽化が確認されており、適切な維持管理が必要。

- 樋門・樋管、排水機場、堰、陸閘など57もの河川管理施設(直轄管理)があり、これらの施設は、昭和40年～50年代に設置された施設や、年代不明のものがあり、今後、老朽化による機能低下が顕在化し、施設更新時期が集中。

- 樋門・樋管や排水機場等の施設操作については、操作員の高齢化、局所的な集中豪雨の頻発による操作頻度の増加等が懸念され、操作に対する負担が増大していることから、監視・操作環境向上のための機器設置が求められており、迅速かつ的確な操作体制の維持が課題。



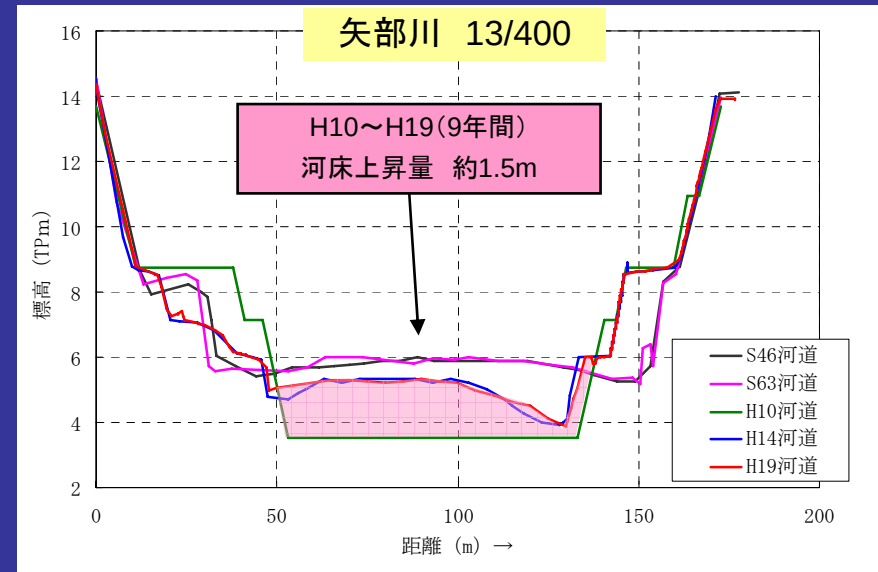
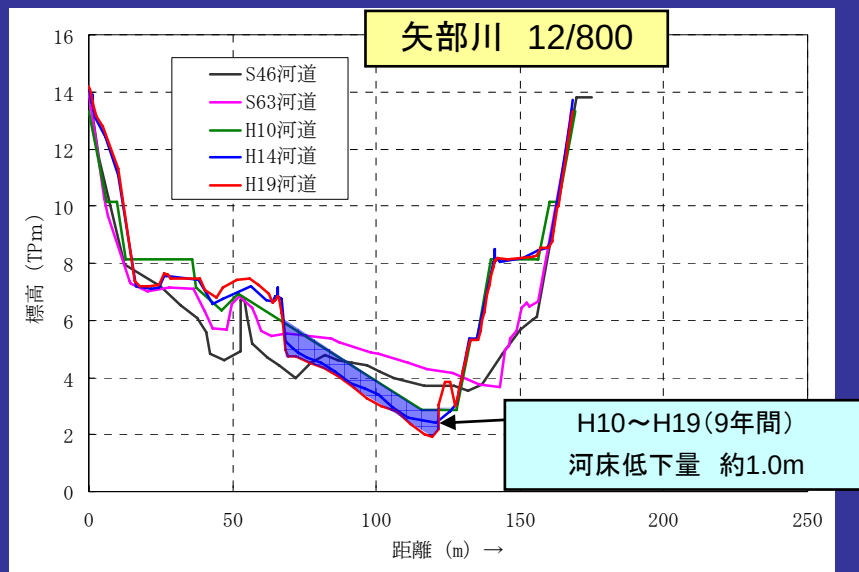
河川管理施設(樋門・樋管、水門)
年代別設置数

⑤ 河川の維持管理(土砂管理)

【現状と課題】

●矢部川下流部は、有明海の干満により、微粒子の土砂(以下、「ガタ土」という。)が堆積しやすく、水門・樋門等の周辺に堆積した場合には、洪水時のゲート開閉及び排水機能に支障をきたす恐れがある。また、ガタ土の堆積が進むと、河川の流下能力が不足し、治水上への影響が懸念。

●土砂堆積により河床高が上昇すると流下能力が不足する一方で、河床高が低下すると洗掘により堤防や護岸など河川構造物が不安定となり、また水衝部等での局所洗掘や土砂堆積が生じ、護岸等構造物への影響が懸念。



3) 現状と課題 【水利用】

3).1 水利用

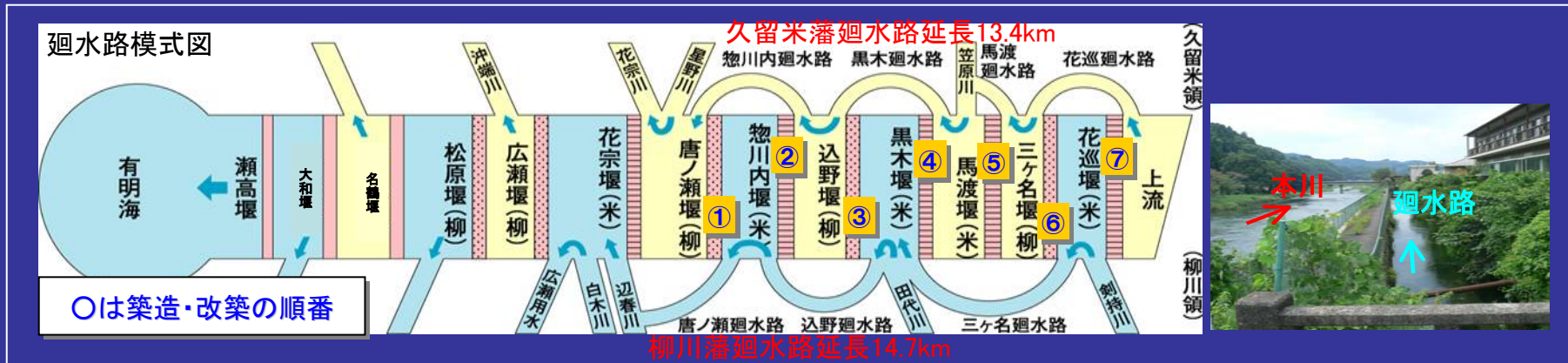
3).2 流水の正常な機能を維持するために
必要な流量

3).1 水利用(1/2)

3).1 水利用(2/2)

・矢部川の水を効率的・効果的に利用するため、上流域には藩政時代に造られた廻水路(バイパス)が現存し、下流域には水を反復利用するためのクリークが網の目のように発達するなど独自の複雑で高度な水利用形態がある。

【廻水路(上流域)】



【クリーク(下流域)】



【課題】 矢部川では独自の複雑で高度な水利用により、効率的・効果的に水利用が行われているが、かんがい期の一時的な河川流量の低減など、水利用への影響が懸念されている。

3).2 流水の正常な機能を維持するために必要な流量(1/2)

正常流量

=

維持流量

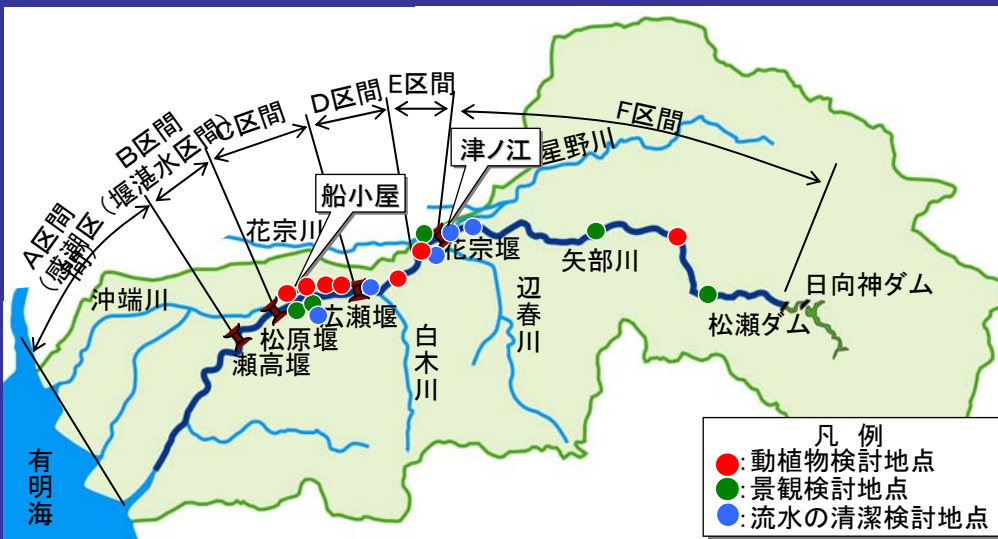
+

水利流量

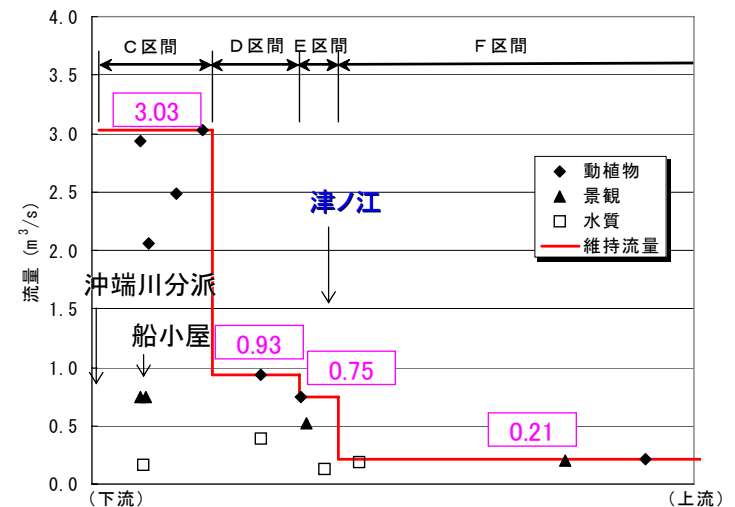
維持流量

・右表①～⑨の9項目を検討した結果、かんがい期で、C区間では最大 $3\text{m}^3/\text{s}$ 程度の維持流量が必要と考えられる。(設定根拠:動植物)

項目	検討内容・決定根拠等
①動植物の生息地又は生育地の状況	アユ、ウグイ、オイカワの産卵及び移動に必要な流量を設定
②景観	アンケート調査により良好な景観を確保するのに必要な流量を設定
③流水の清潔の保持	環境基準(BOD75%値)の2倍値を満足するために必要な流量を設定
④舟運	感潮区間において、小型漁船等による利用は潮位により維持される
⑤漁業	動植物の生息地又は生育地の状況からの必要流量に準じた値を設定
⑥塩害の防止	感潮区間は、瀬高堰までであり、取水施設はその上流に存在していることや過去河川取水に関する塩害の実績もない
⑦河口閉塞の防止	過去に河口閉塞は発生していない
⑧河川管理施設の保護	対象となる河川管理施設は存在しない
⑨地下水位の維持	既往渇水時において、河川水の低下に起因した地下水被害は発生していない



9/1-10/31(かんがい期):アユ産卵、ウグイ・オイカワ移動

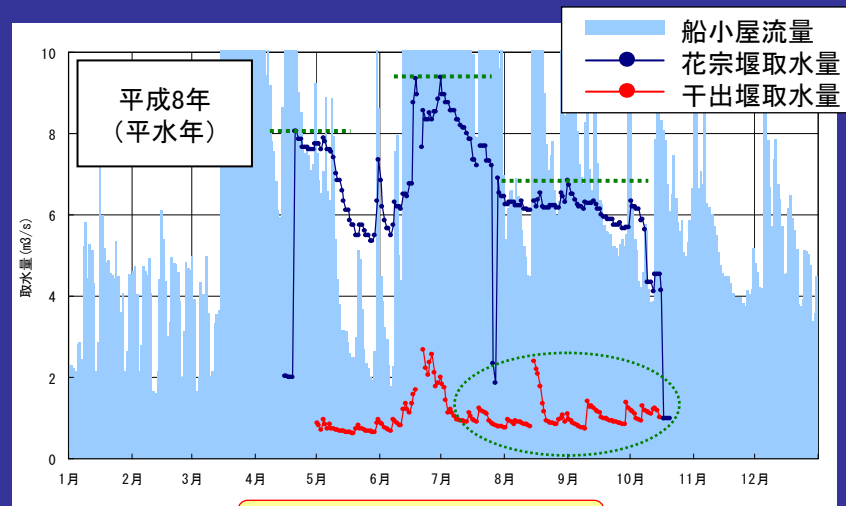
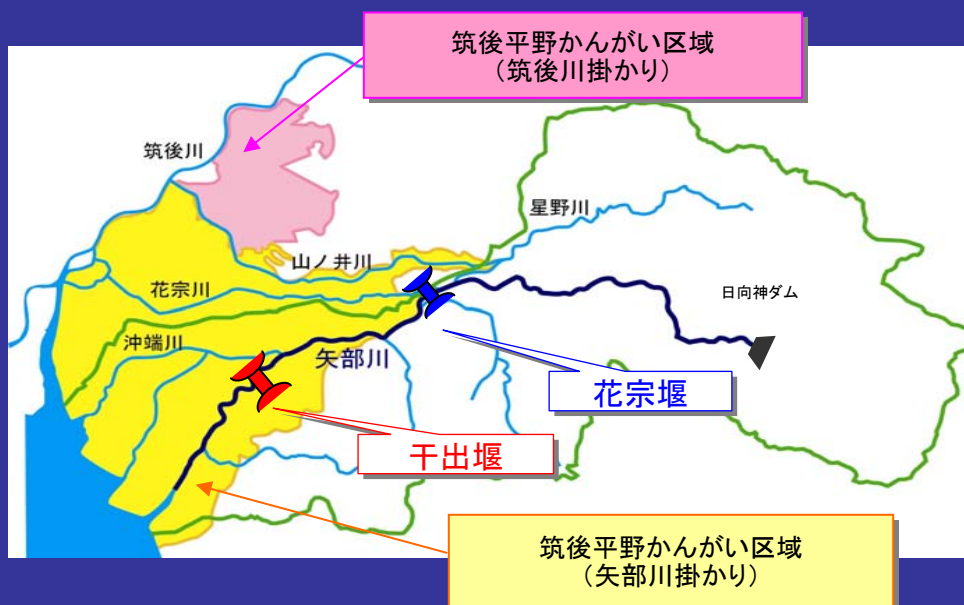


【区間別維持流量設定図】

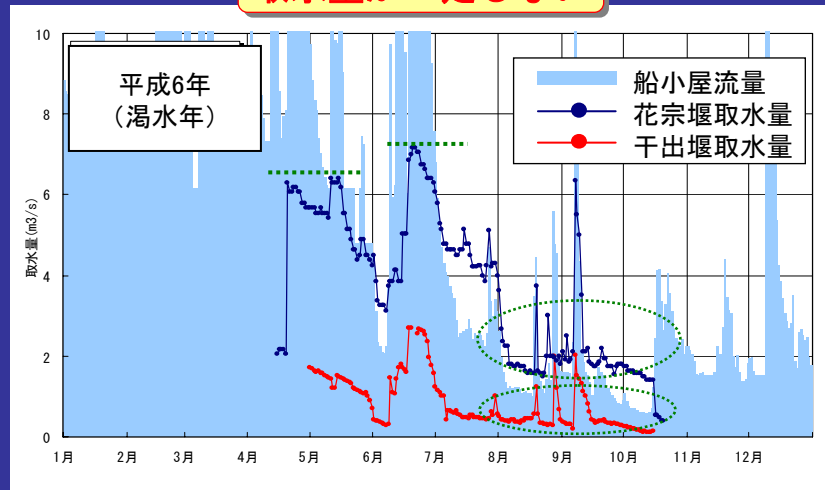
3).2 流水の正常な機能を維持するために必要な流量(2/2)

水利流量

- ・その時々の流況や各地域の水事情に応じ複雑な取水量の調整がなされており、同一期間内でも各水利用者の実績取水量は大きく変動することから、水利流量の設定が難しい。



取水量が一定しない



【課題】・取水形態や水利用の複雑さにより水利流量の設定が難しいため、過去から営まれてきた独特の水利用を考慮しながら、正常流量を含めた低水管理手法について関係機関と連携して検討する必要がある。

4) 現状と課題【環境】

- 4).1 河川環境(動植物の生息、生育、繁殖環境)
- 4).2 水質
- 4).3 河川空間の利用

4).1 河川環境(動植物の生息、生育、繁殖環境)



4).1 河川環境(動植物の生息、生育、繁殖環境)

①下流部【感潮区間】 矢部川0.0k～10.2k, 飯江川0.0k～2.4k, 楠田川0.0k～0.2k

- ・矢部川本川河口から瀬高堰下流、支川楠田川、支川飯江川の高田堰下流は、**有明海特有の汽水域や河口干潟を形成している。**
- ・汽水域には有明海流入河川特有のエツ、アリアケシラウオが生息している。
- ・干潟には、ムツゴロウ、ハラグクレチゴガニなど、**干潟特有の生物が生息**し、水際にはヨシ群落やハマサジ、ヒロハマツナなどの**塩生植物群落**が生育している。また鳥類の採餌場や集団越冬地などに利用されている。



河口部の干潟
(矢部川0.0k付近)

【課題】

- ・塩生植物群落の生息場である**水際の保全**
- ・有明海特有の魚類や底生動物の生息場である**干潟の保全**



エツ



アリアケシラウオ



ハラグクレチゴガニ



ハマサジ



ヒロハマツナ

＜下流部【感潮区間】で確認されている重要種＞

②中流部 1 【湛水区間】 矢部川10.2k～14.6k

- ・ 4つの堰（瀬高堰、大和堰、名鶴堰、松原堰）の湛水域が連続して存在し、湛水域や水際植生帯の緩やかな流れには、ヤリタナゴ、ギンブナ、モノアラガイなどの魚類や底生動物が生息している。
- ・ 船小屋地区のワンドはタナゴ類、オヤニラミ、サギ類の生息場となっている。

【課題】

- ・ 湛水域に生息する生物の生息環境の保全
- ・ 特定外来種ブラジルチドメグサの繁殖抑制。



瀬高堰上流の
湛水区間



船小屋地区のワンド
(矢部川14k000付近)



ブラジルチドメグサ
の繁茂状況



ヤリタナゴ



モノアラガイ



ワンドに生息するサギ類

＜中流部 1 【湛水区間】で確認されている重要種＞

③中流部 2 【瀬・淵が連続した区間】 矢部川14.6k～19.4k

- 船小屋地区及びその上流は瀬・淵が連続し、良好な河川環境を形成している。
- 瀬はアユやオイカワの産卵場、チスジノリの生育場となっている。淵は河畔林からの落下昆虫や小魚を餌とするオヤニラミの生息場となっている。
- 国指定天然記念物のクスノキ林（昭和49年指定）及びゲンジボタルの発生地（昭和16年指定）が存在する。
- 水際にはツルヨシ群落、河岸にはクスノキ林や竹林等の河畔林が帯状に分布している。

【課題】

- アユ等の魚類の生息・繁殖環境である瀬・淵の保全
- クスノキ林及びゲンジボタルの生育・生息環境の保全



クスノキ林及びツルヨシ群落



連続する瀬・淵

瀬・淵、河畔林
（広瀬堰下流）



アユ



チスジノリ



オヤニラミ



ゲンジボタル

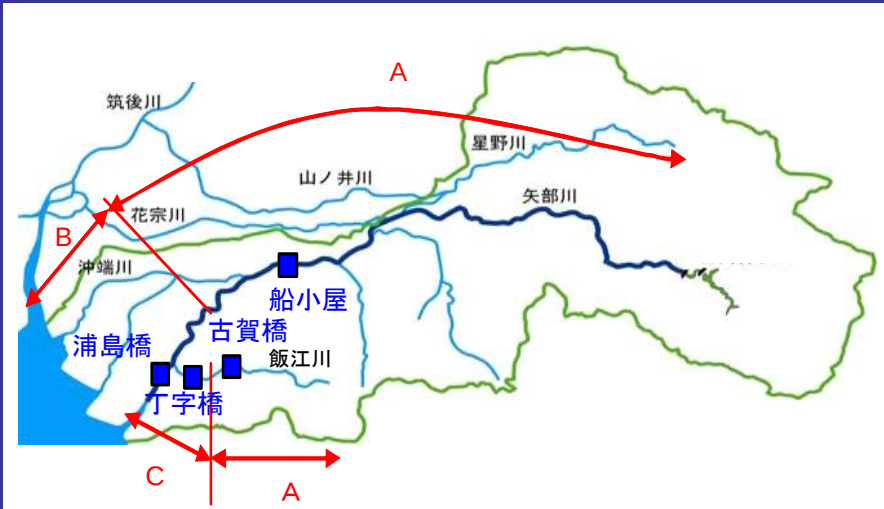
＜中流部 2 【瀬・淵が連続した区間】で確認されている重要種＞

4).2 水質

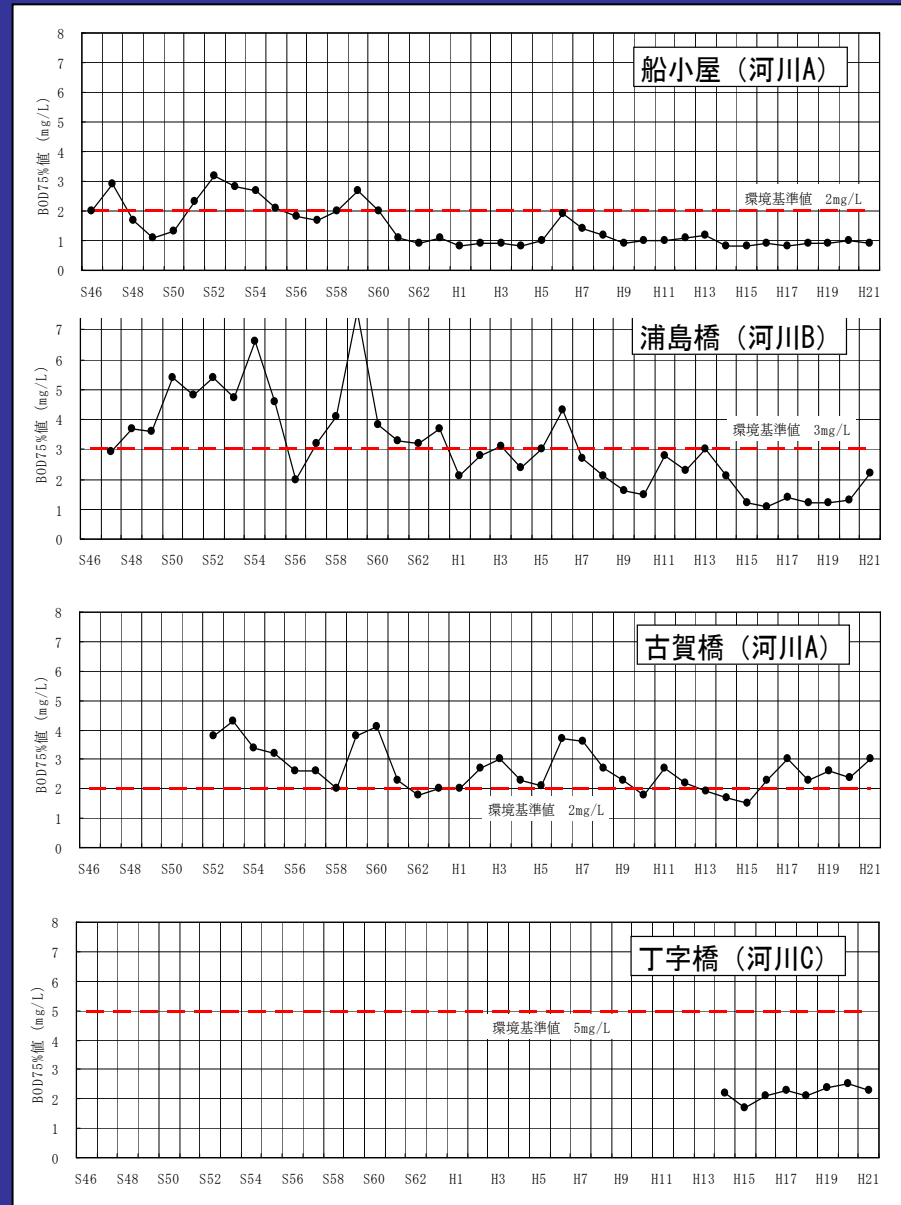
- ・全川的に概ね環境基準を満足している。

【課題】

- ・支川飯江川の新賀橋地点では、環境基準を満足出来ていない状況である。
- ・新賀橋地点の水質が悪い要因としては、夏場に堰の湛水区間となることから、植物プランクトンの増殖等が考えられる。



河川水質類型指定図



矢部川水質経年変化図

4).3 河川空間の利用

- ・日向神峡や船小屋温泉、柳川の掘割など、矢部川流域に点在する観光地には多くの観光客が訪れている。
- ・クスノキ林のある中ノ島公園では、多くの人々が散策やキャンプなど憩いの場として利用している。
- ・下流部では、有明海のノリをはじめとする漁業が盛んであり、漁港や航路として利用されている。



<柳川川下り>

水郷の魅力を存分に満喫しながら水路を小舟に乗って辿る川下り。



<宮野公園>

緑溢れる空間となっており、休日には多くの市民がカーヌ遊びなどを楽しむ場。



<べんがら村>

矢部川のせせらぎに抱かれたやすらぎの空間。人に元気をくれる自然との交流の場。



<日向神峡>

矢部川上流の日向神ダムの湖畔にあり、岩山に映える紅葉が見られる。



<中島漁港>

有明海沿岸のノリ養殖漁業の拠点地として発展した漁港。



<中ノ島公園>

県の森林浴百選、木かげの散歩道コースに選ばれている、静かで大きな公園。



<千間土居公園>

桜が植栽されており、アユの季節には釣り師でにぎわう自然豊かな公園。

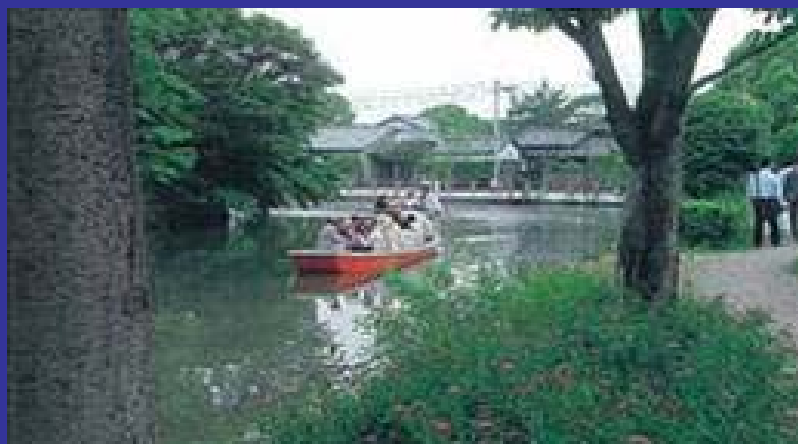


<矢部川源流公園>

自然の河川を利用したプールや親水広場・巨大時計などがあり、家族やグループで楽しめる場。

①下流部【感潮区間】 矢部川0.0k～10.2k, 飯江川0.0k～2.4k, 楠田川0.0k～0.2k

- ・派川沖端川では柳川の川下りが観光名所となっており、多くの観光客が訪れている。
- ・有明沿岸のノリ養殖漁業の拠点地として発展した漁港が存在している。



柳川の川下り



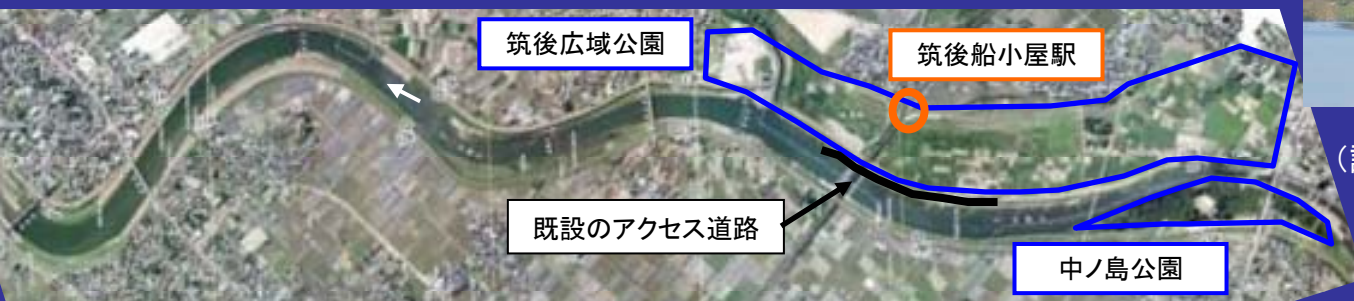
中島漁港

②中流部 1【湛水区間】 矢部川10.2k～14.6k

- ・湛水区間は魚釣りに利用され、市民の憩いの場となっている。
- ・湛水区間が連続することから、カヌー等による水面利用のニーズが高い。
- ・沿川では九州新幹線「筑後船小屋駅」が平成23年3月開通予定であるとともに、福岡県最大規模の広さを誇る「筑後広域公園(約190ha)」が現在整備中である(一部供用開始)。

【課題】

- ・今後河川利用の増加が見込まれる筑後広域公園と河川内の中ノ島公園を安全に行き来するアクセス道路が無い。
- ・一旦、水に落ちると陸に避難が困難。



船小屋地区の河岸の現状
(護岸勾配が急で水に落ちると避難が困難)



整備中の筑後船小屋駅



筑後広域公園の整備状況



河川利用のイメージ

③中流部2【瀬・淵が連続した区間】 矢部川14.6k～19.4k

- ・国指定天然記念物クスノキ林が繁茂する中ノ島公園及び船小屋温泉があることから、多くの市民、観光客が河川を利用している。
- ・沿川では九州新幹線「筑後船小屋駅」が平成23年3月開通予定であるとともに、福岡県最大規模の広さを誇る「筑後広域公園（約190ha）」が現在整備中である（一部供用開始）。

【課題】

- ・今後河川利用の増加が見込まれる筑後広域公園と河川内の中ノ島公園を安全に行き来するアクセス道路が無い。



筑後広域公園の整備状況



根固めが沈下し、釣り等安全に河川利用できない状況



船小屋温泉周辺の河川利用状況



中ノ島公園の利用状況

5.

3) 矢部川の河川整備計画の目標について 【治水】

目標設定の考え方【洪水対策】

- 矢部川本川の目標は、治水安全度の上下流バランスの確保しつつ洪水による災害に対する安全性の向上を図ることを目標とし、基準地点(船小屋)において戦後第2位の洪水である平成2年7月洪水と同規模の洪水を安全に流下させることができるようにする。
- 支川飯江川についても、本川と同様に安手橋地点において、戦後第2位洪水の洪水である平成13年7月洪水と同規模の洪水を安全に流下させることができるようにする。

河川名	地点名	既往洪水						雨量確率による確率規模別 流量 (m3/s)		
		第1位		第2位		第3位		W=1/30	W=1/50	W=1/100
		流量 (m3/s) ＜洪水名＞	確率規模	流量 (m3/s) ＜洪水名＞	確率規模	流量 (m3/s) ＜洪水名＞	確率規模			
矢部川	船小屋	3,470 ^{※2} ＜S28.6＞	1/100	3,078 ^{※1} ＜H2.7＞	1/47	2,538 ^{※1} ＜H19.7＞	1/15	2,890	3,120	3,470
飯江川	安手橋	500 ^{※2} ＜H2.7＞	1/100	300 ^{※2} ＜H13.7＞	1/30	248 ^{※2} ＜H17.7＞	1/17	300	370	500

※1:ダム戻し後の流量 ※2:推算流量
 ※平成2年7月洪水は、本川下流域の雨量が多かったため、本支川での治水安全度の規模が異なる。

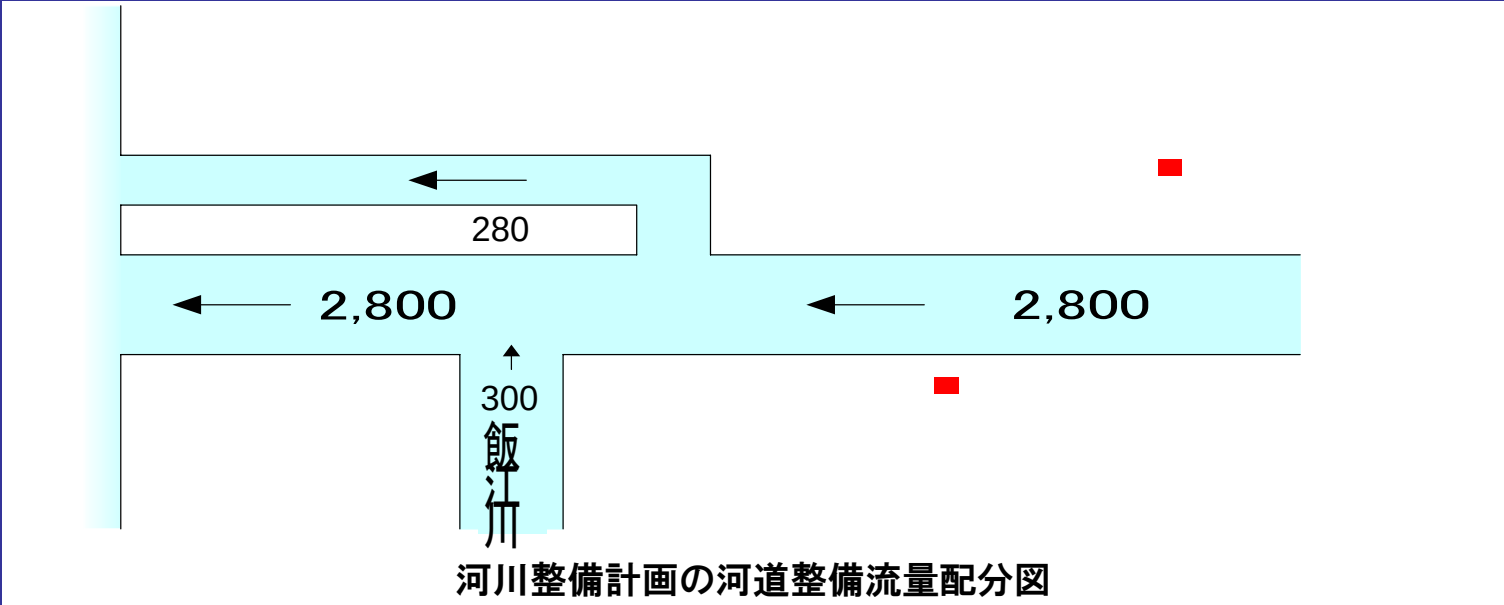
- 矢部川本川において、戦後第2位の平成2年7月洪水は約1/50規模である。
- 支川飯江川において、戦後第2位の平成13年7月洪水はを約1/30規模である。

河川整備計画の河道目標流量

河川整備基本方針と今回の河川整備計画の比較

地点名		基本方針 (W=1/100)		整備計画目標流量 (矢部川W=1/50、飯江川W=1/30)	
		基本高水	計画高水	洪水調節なし	日向神ダムによる洪水調節後
矢部川	船小屋	3,500	3,000	3,100	2,800
	飯江川合流後	3,500	3,000	3,100	2,800
飯江川		500	500	300	300

河道の整備流量は既設の日向神ダムとの流量配分により決定



目標設定の考え方【高潮対策】

矢部川の高潮整備目標は、既に完成している有明海海岸堤防高との整合性を考慮し、また矢部川河口部における他事業管理区間において現在整備中である堤防整備計画高と整合を図るべく、高さを設定

矢部川河口地点での計画高潮位＋打上げ高＋余裕高を加えた計画堤防高T.P.7.5mから、波高の減衰を考慮した各地点の波高をもとに設定

目標設定の考え方【堤防の浸透に対する安全性】

既設の堤防については、洪水における浸透や侵食に対する所用の安全性を確保することとします。

目標設定の考え方【内水対策】

内水被害が発生する区域においては、関係機関と連携・調整を図りつつ、必要に応じて内水被害の軽減対策を実施します。

目標設定の考え方【維持管理】

河川の維持管理は、災害発生の防止及び軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能、河川環境の整備と保全、河川の利用など多岐にわたっており、河川の有する多面的な機能を十分に発揮できるよう、日々の維持管理を確実に実施することが必要。

以下の目標を定め適切な維持管理に努めます。

●河川管理施設等の維持管理

河川管理施設が本来の機能を発揮し、良好な状態を維持できるよう、状態に応じた対策を講じるとともに、ライフサイクルコストの縮減も検討し、長寿命化に努めます。

水質事故に対しては、迅速に対応し被害拡大防止に努めます。

●河道内の樹林化対策及び土砂動態の把握

生物の生息・生育・繁殖環境に配慮し、河道内の樹木や土砂堆積が治水上支障とならないよう計画的に管理することに努めます。

●河川空間の適正な利活用

河川敷や水面の良好な環境を保つため、占用地や占有者に対する適切な維持管理に努めます。また、不法係留や不法投棄に対しては、関係機関等と連携を図りつつ是正指導を行い、治水上の問題の解消や景観阻害の回復に努めます。

●地域との連携

地域住民の意見を踏まえながら河川管理に取り組むとともに、地域と一体となった被害の最小化に努めます

5.

3) 矢部川の河川整備計画の目標について 【水利用】【環境】

【水利用】

【水利用の現状と課題】

矢部川では、上流域の廻水路（バイパス）、下流域のクリーク等、独自の複雑で高度な水利用により、効率的・効果的に水利用が行われているが、かんがい期の一時的な河川流量の低減など、水利用への影響が懸念されている。

【水利用の目標】

- ・流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、流量調査や環境調査等、河川や流域における諸調査を継続するとともに、クリーク等を介した複雑な農業用水の利用特性を把握する。
- ・既存施設の有効利用等による流況改善に努める。
- ・渇水等の被害を最小限に抑えるため、情報提供、情報伝達体制を強化するとともに、水利使用者相互間の調整が円滑に行えるよう関係機関及び水利使用者等と連携する。

【環境】

【環境の現状と課題】

◆河川環境(動植物の生息、生育、繁殖環境)

- ・下流部:有明海特有の貴重な汽水環境の保全
- ・中流部1:ワンドをとりまく豊かな自然環境の保全
- ・中流部2:アユの産卵場、チスジノリの生息場となっている瀬・淵及び河畔林、ゲンジボタルの生息場の保全

◆水質

全川的に概ね環境基準値を満足している。ただし支川飯江川において湛水の影響で夏場に環境基準値を超える場合がある。

◆河川利用

- ・中流部1:今後河川利用の増加が見込まれる筑後広域公園と河川内の中ノ島公園を安全に行き来するアクセス道路が無く、一旦、水に落ちると陸に避難が困難。
- ・中流部2:今後河川利用の増加が見込まれる筑後広域公園と河川内の中ノ島公園を安全に行き来するアクセス道路が無い。

【環境の目標】

- 河川環境:現状の河川環境の保全
- 水環境 :水質の保全及び改善
- 河川利用:河川利用の安全性・利便性の向上